

「(仮称) 2050 まちづくりビジョン (たたき台)」の策定について

人口減少や少子高齢化が進行する中、今後のまちづくりにあたっては、公共と民間の双方が連携を図り、限りある財源を重点的かつ有効に投資していくことが求められる。

そこで、令和2年度に小倉・黒崎・東田の3地区において、概ね30年後の2050年を見据え、地区の将来像を示す、長期の「まちづくり構想」の策定に着手した。

この度、庁内に設置した「まちづくり構想策定委員会」においてたたき台をとりまとめたため、報告を行うもの。

1 構想策定の経緯

- ・令和2年4月～令和3年3月 まちづくり構想策定委員会の開催 (計4回)
- ・令和2年10月21日 建設建築委員会 中間報告

2 構想の主な内容 ※別添資料参照

1) 目標年次

概ね30年後の2050年

2) 構想の目的・役割

- ▶ 本市にとって、市が考える将来目指すまちづくりの方向性について、あらかじめ明示する「メッセージ」となるもの
- ▶ 民間にとって、まちづくりへ投資を行う際、1つの重要な「判断材料」となるもの
- ▶ 市と民間にとって、互いにベクトルを合わせ、将来に向かって同じ方向へ歩いていくための「羅針盤」となるもの

3) 対象エリア

構想は、近年、新たな民間開発など都市イメージの向上に資する変化が生じてきている小倉・黒崎・東田の3地区で策定。

集中投資を図るため、対象エリアはできるだけコンパクトに設定し、駅周辺概ね1kmのエリアとする。

3 今後のスケジュール (予定)

- ・令和3年7月～10月 関係者との意見交換
(地域のまちづくり団体・学識経験者・民間事業者等)
- ・令和3年11月～12月 パブリックコメント
- ・構想は、令和3年度末を目途にとりまとめる予定。
- ・構想と併せて、当面5年程度の期間における個別の施策・事業等を定める実施計画もとりまとめる予定。

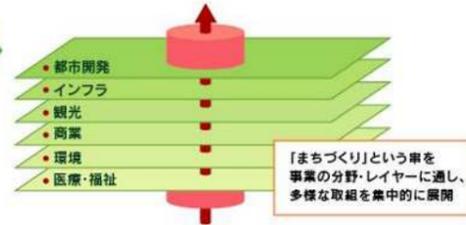
1. 将来を見据えた「まちづくり構想」について 「これまで」と「これから」のまちづくり

01 これまでの「成長時代」のまちづくり

- 開発圧力が強く相当額の財源がある中、公共・民間がそれぞれ個別に投資。双方の各投資が一定のインパクトを与えてきた。
- 公共は、インフラを整備し、人やモノの流れを活性化するなど経済活動を誘発し、また、機能・用途の単純化、ゾーニング・分離等により、民間の旺盛な開発圧力を調整。

02 これからの市と民間が連携したまちづくり

- 限りある財源を、公共と民間が連携して重点的に投資。双方の特性や強みを生かし、効果的に最大のインパクトを生む。
- 「まちづくり」という視点で串を通し、多様な取組をコンパクトなエリアで集中的に展開。



03 バックキャストによるまちづくり

- 一旦足下をフリーにして、将来目指すまちの姿を考える。
- 目指す将来像と現状との間にあるギャップを捉え、ギャップを埋めるように、足元からひとつずつ取組を進めていく。
- 事業者や分野ごとに異なる、様々な企業活動等においても、将来を見通し、互いに長期的なベクトルを合わせることが必要。



04 経済活動等ニーズに適応したまちづくり

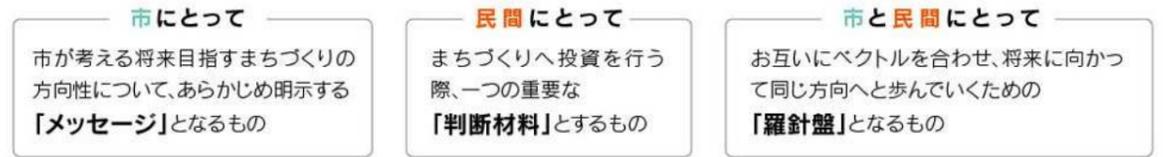
- 経済活動等のニーズを的確に捉えるとともに、ターゲットとなるプレイヤーを見定める。
- プレイヤーのパフォーマンスの最大効率化を図ることができるような、ニーズに適応したまちづくりを進める。チャレンジするまちのプレイヤーを積極的に応援する。
- 例えるならば、「まち」づくりとは、役者のための「舞台」づくりである。



構想の目的・役割 構成 対象エリア 位置付け

構想の目的・役割

- まちづくり構想は、未来の新機軸を打ち出すために策定。



構成

- 構想の目標年次は、一世代先の将来を見据え、概ね30年先の2050年とする。
- 一旦足下をフリーにして考えることのできるバックキャストの手法によることとする。
- また、構想の下に、別途、当面5年程度を期間とする「実施計画」を策定する。構想実現に向けた個別の施策・事業等を記載する。



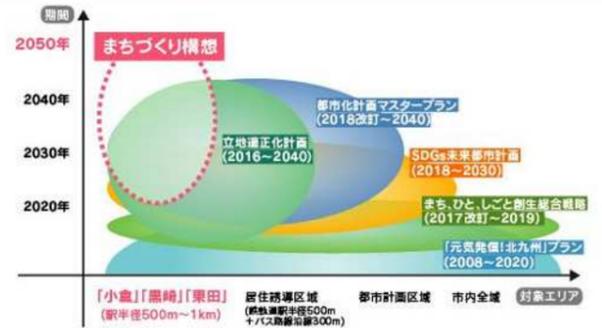
対象エリア

- 構想は、北九州市のまちづくりの核であり、かつ、近年、新たな民間開発など都市イメージの向上に資する変化が生じてきている「小倉」「黒崎」「東田」の3地区で策定。
- 集中投資するため、対象エリアはできるだけコンパクトに設定し、駅周辺概ね1kmのエリアとする。



位置付け(他の構想・計画等との関係性)

- 「元気発進!北九州」プラン、都市計画マスタープラン等は、本市全域を対象。
- 目標年次は、構想が2050年であるのに対し、「元気発進!北九州」プラン(2020年)や都市計画マスタープラン(2040年)等よりも先を見据えたもの。
- 小倉・黒崎・東田の対象エリア内においては、他の構想・計画に記載する取組に加え、本構想で描く将来のまちの姿を実現するための取組を付加して、まちづくりを強力に推し進める。



構想の描き方 ~ 2050年の姿を描くまでのステップ ~

「将来トレンド」を掴む

以下の3つの切り口から、チャンス・脅威を含め、社会の流れ・変化を掴む。

- 1 「人口動態」やコロナ禍で加速した「新たな生活スタイル」
- 2 「ゼロカーボン・技術革新・DX」の方向性
- 3 将来、世代の中心を担う「若者の意識・常識」

「地区特性」を把握する

業務・ビジネス、住宅、商業・サービス、観光・文化、交通等に関し、地区の歴史や地区固有の強み・課題など、特性を把握する。

『将来トレンド』と『地区特性』から

2050年における、地区の「将来の姿」を描く

4. 地区の「将来の姿」を描く STEP.3

「将来トレンド」と「地区特性」から描く2050年の姿



地区の強みを生かした、SDGS未来都市・ゼロカーボンシティ

2050年に目指す方向

ESGに取り組む企業やワーカーを呼び込み、ひととの交流や自己実現できる快適で豊かなまち

ターゲットプレイヤー



パフォーマンス・活動

- 屋内・屋外問わず、あらゆる場所で、自由に、快適にはたらく
- 交流や境界性のある空間で新たなビジネスを創出
- ワーカーをターゲットにした多種多様な飲食・ショップが出店

2050年に目指す方向

多様性に富み、誰もが住みたいカーボンニュートラルなまち

ターゲットプレイヤー



パフォーマンス・活動

- アクティブで魅力あふれる暮らしを実践し、人を惹きつける
- 個性派ショップの出店など、チャレンジでまちを磨き続ける
- スキマ時間をシェアしながら、誰もが元気にカッコよくはたらく

2050年に目指す方向

先端技術による未来空間で、新たな感動体験ができるまち

ターゲットプレイヤー



パフォーマンス・活動

- 「先端技術×観光」が生み出す新たな感動体験
- 未来を切り開く新規ビジネスの創造にチャレンジ
- 最先端トレンドをキャッチし、次世代スタイルを実践